

令和3年度 横浜市立四季の森小学校 学校だより  
このまちに生き、共に輝く子

ねばり強く取り組む子 思いやりのある子 命を大切にす子 地域に愛着をもつ子 社会への視野を広げる子



# 四季の森

6月号

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shikinomori/>

## 互いに認め合う

校長 笹原 洋子

今年は早くも梅雨のような天候が続いています。学校では学年毎に朝顔、夏野菜などの種や苗を植えたり、春の生き物の観察をしたりと、季節を感じながら日々の学習を行っています。

先日、令和3年度 第1回 上白根中学校・四季の森小学校合同学校運営協議会を開催しました。学校運営協議会というのは保護者や地域の皆様と協働しながら学校運営を行うための仕組みです。その会議で、上白根中学校と四季の森小学校それぞれの令和3年度の中期学校経営方針をお示しし、学校がやろうとしていることを説明させていただきました。協議会のメンバーの方からは「GIGAスクール構想など、先生達が研修しなくてはいけないことが多くて大変ですね。」という労いのお言葉や、「9年間で育てる子ども像にある『互いに認め合い』は大人の課題でもありますね。」などのご意見をいただきました。

子どもの数が減少し、それに伴って教員の数も減少していく本校では、今まで以上に保護者や地域の皆様にお力添えをお願いすることが増えるかと思えます。今年度も本校の学校運営に、ご理解、ご協力いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

(令和3年度 中期学校経営方針は本校のホームページに掲載しました。ご覧いただければ幸いです。)

学校では、自分にとっての『当たり前』がほかの人にとっては『当たり前』ではないと気付くことがあります。例えば、家庭でのルールが違ったり、それぞれの家庭で使っている言葉や習慣が違ったりします。当然、一人ひとりの個性によっても好みが違ったり、表現の仕方が違ったりと、様々な違いがあります。小学校生活を通してそんな違いに気付き、詩人 金子 みすゞさんの詩「私と小鳥と鈴と」の最後にあるように『みんなちがって、みんないい。』と感じられるようになってほしいと願っています。

学習場面などでもそれぞれが導き出した答えが違ったり、やりたいことが異なったりすることがたくさんあります。そんな時に、「私は違う意見で、〇〇〇だと思う。」「こんな風に考えたら〇〇という答えになった。」と言えたら、互いに認め合うことができるようになるのではないかと考えます。

世の中でも、立場や経験が異なれば、意見や考えは異なるものです。

『互いに認め合う』ということは簡単なことではないと思いますが、四季の森小の子ども達とその子ども達に関わる大人も一緒に『互いに認め合う』ことを目指していきたいものです。

